

タイムテーブル

第一部 「当事者・市民と製薬企業」 司会 細田満和子

- 10:00-10:10 吉田 智美「医薬品の開発の歴史と患者・市民（企画背景）」
10:10-10:25 大内 香「製薬会社が目指す患者さん貢献」
10:25-10:40 東山 浩之「当事者・市民と製薬企業の真のパートナーシップを目指して」
10:40-11:00 宿野部 武志「当事者と製薬企業の協働について(当事者の立場での実践から)」
11:00-11:20 川田 龍平「血友病患者、薬害HIV感染当事者として、製薬企業との協働について思うこと」

-----休憩-----

第二部 「討論」 司会 杉原正子

- 11:25-11:45 グループ討論
11:45-12:30 全体討論

演者・司会プロフィール (50音順)

	大内 香 (中外製薬株式会社 メディカルアフェアーズ 本部長) 東京大学農学部卒。1987年日本ロシュ研究所・腫瘍免疫部に入社、2002年に中外製薬に転籍。育薬研究部長、メディカルサイエンス部長などを経て、2020年執行役員。メディカルアフェアーズ本部長に就任。農学博士、経営修士。趣味は音楽鑑賞、夫・娘の三大家族。
	川田 龍平 (参議院議員 薬害エイズ訴訟原告) 生後6ヶ月にて血友病と診断される。血友病治療に使用した輸入濃縮血液製剤により10歳でHIV感染。19歳で薬害エイズ裁判原告として実名公表。国・製薬企業と和解。ドイツ留学、国会議員秘書、松本大学非常勤講師を経て、参議院議員(3期目)。岩手医科大学客員教授 日本エイズ学会代議員 参議院厚生労働委員会所属
	宿野部 武志 (一般社団法人 ピーベック 代表理事) 3歳時に慢性腎炎に罹患。18歳より慢性腎不全により透析導入。現在透析歴35年目。14年勤めたソニー(株)を退職後、社会福祉士の資格を取得。2010年より病気をもつ立場から医療に貢献するための活動を始動。東京医科歯科大学医学部附属病院治験等審査委員会委員、日本生命倫理学会「当事者・市民協働参画を考える」部会幹事等
	杉原 正子 (国立病院機構 東京医療センター 精神科医師) 早稲田大学で数学を学んだ後、日本IBM(株)に勤務したが、「機械は愛せない。」と悟り、文学の大学教員を目指して退職。Harvard大学大学院比較文学科Special Student、東京大学大学院総合文化研究科博士課程、山梨大学医学部を経て、現職。日本精神神経学会認定専門医、日本生命倫理学会「当事者・市民協働参画を考える」部会部会長など。
	東山 浩之 (アステラス製薬株式会社 ペイシェント・セントリシティ室 次長) 歯科医師。徳島大学大学院博士課程（口腔病理学）修了。日本学術振興会特別研究員、Cold Spring Harbor研究所ポスドクトラルフェローを経て、製薬業界へ。GlaxoSmithKline、エーザイ（株）にて新薬の探索研究及び臨床開発に従事、2020年より現職。
	細田満和子 (星槎大学 教授) 東京大学大学院人文社会系研究科で博士（社会学）を取得し、2004年からコロンビア大学、ハーバード大学で社会学、公衆衛生学、生命倫理学の研究に従事。2012年に帰国し現職。主著書は『「チーム医療」とは何か』、『脳卒中を生きる意味』など。世界社会学会医療部会会長。アジア太平洋社会学会副会長。
	吉田智美 (筑波大学 大学院 システム情報工学研究群 博士後期課程) 2005年立教大学ビジネスデザイン研究科MBA修了。医療用具の営業、MRを経験後、企画、人材育成業務を経験。国立病院の倫理サポートチームを経て、Health Communication Facilitator®としての活動をしながら、サービス工学の研究室で医薬品産業、医療・ヘルスケアにおける価値共創を研究している。